

EU Indicators

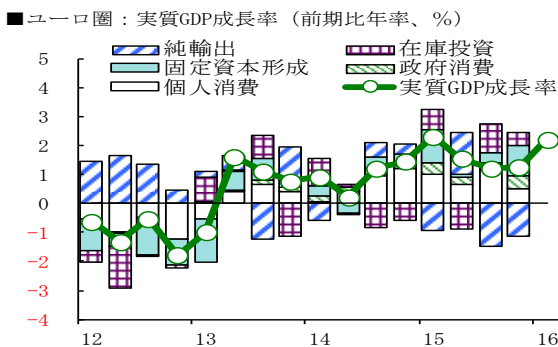
欧州経済指標コメント：1-3月期ユーロ圏GDP速報値

発表日：2016年5月2日(月)

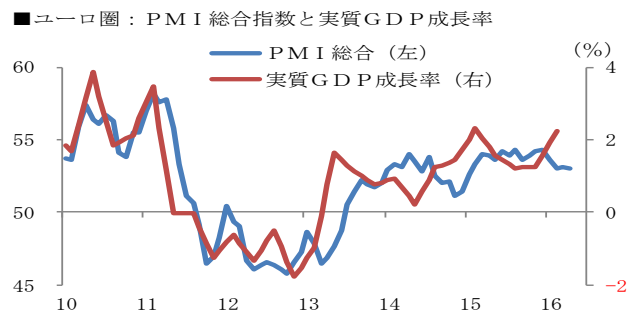
～金融危機の亡霊とおさらば～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 4月29日に発表された1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.6%、同年率+2.2%と前期(同+0.3%、同年率+1.3%)から大幅に加速した。今四半期から速報値の発表タイミングが前倒しされたが(当該四半期終了から約45日後→約30日後)、速報段階では需要項目別の内訳は元より、国別内訳も公表されなくなった。国別内訳はこれまで同様に当該四半期終了から約45日後(今回は5月13日)、需要項目別の内訳は6月7日の改定値で明らかとなる。
- 公表済みの国別の実質GDP成長率は、フランス(前期：同+0.3%→今期：同+0.5%)とオーストリア(同+0.2%→同+0.6%)で成長ペースが加速した一方、スペイン(同+0.8%→同+0.8%)が不変、ベルギー(同+0.5%→同+0.2%)で成長が鈍化した。このうち需要項目別の内訳が公表されているのはフランスのみで、外需と在庫投資が成長を下押しした一方で、個人消費、政府消費、設備投資が成長を押し上げた。また、生産や小売統計の推移から判断して、ドイツも個人消費や設備投資が牽引する形で成長が加速した模様(前期は同+0.3%、5月13日に需要項目別内訳とともに公表)。
- ユーロ圏の実質GDPは12四半期連続のプラス成長を記録し、金融危機前のピーク水準を超えた。同日発表された3月のユーロ圏の失業率も2013年初の12%超をピークに10.2%にまで低下。雇用情勢の改善が内需の回復を後押ししている。温暖な天候による建設投資の好調、出来すぎの感もある月次統計の上振れも1-3月期の成長率を上押しした模様で、4-6月期は反動で成長ペースがやや鈍化する公算。



出所：Eurostat



注：実質GDP成長率は前期比年率。
 出所：Markit、Eurostat

■ユーロ圏GDP(前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
14/4-6月期	0.7	0.2	(0.3)	0.7	0.8	▲ 1.8	(0.1)	▲ 0.0	4.1	4.6
14/7-9月期	2.2	1.2	(0.8)	1.7	1.2	2.1	(▲ 0.8)	▲ 0.5	6.6	6.0
14/10-12月期	3.1	1.4	(1.1)	2.2	0.6	1.9	(▲ 0.6)	▲ 0.4	5.1	4.7
15/1-3月期	3.7	2.3	(3.2)	1.8	1.8	5.9	(0.7)	▲ 0.9	5.7	8.7
15/4-6月期	2.8	1.6	(0.1)	1.2	1.1	0.4	(▲ 0.9)	▲ 1.4	6.8	3.9
15/7-9月期	2.4	1.2	(2.7)	2.0	1.3	1.7	(1.0)	▲ 1.5	0.9	4.7
15/10-12月期	2.7	1.3	(2.4)	0.9	2.2	5.4	(0.4)	▲ 1.2	0.9	3.8
16/1-3月期	-	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。